

将来に向かって行動するためのインターンシップ

「制御情報工学科・准教授」

本校では、企業等での就業体験を通して、学生の学習意欲を向上させるとともに、高い職業意識を涵養し、責任感や自立心などを醸成することを目的としてインターンシップを実施しています。本科では4年生の選択科目「校外実習Ⅰ、Ⅱ」として、専攻科では、1・2年生の選択科目「インターンシップ」としてインターンシップ関連科目を開講しています。本科では、5日以上(18日未満)の短期インターンシップを1単位の「校外実習Ⅰ」として、18日以上長期インターンシップを3単位の「校外実習Ⅱ」として単位の認定を行っています。また、専攻科の「インターンシップ」は、期間を135時間以上として、時間数に応じて3単位から最大で6単位まで修得できる科目となっています。長期インターンシップでは、長期に渡り業務に関わることによって、企業等の活動理解の促進、社会人としてのコミュニケーション能力の獲得、自身のキャリア・デザインの明確化を図ることを目的としています。本校では、インターンシップへの参加学生には、事前教育への参加、報告書の作成、報告会での発表を義務づけています。事前教育ではキャリア支援室と連携し、参加の目的や意義、提出書類、ビジネスマナー等の説明および企業人による講話を実施しています。受け入れ先の決定後から事後の指導までは、本科生については、該当学科の学級担任が担当し、専攻科生については、指導教員が担当しています。県内インターンシップでは、可能な限り事前に企業を訪問し、研修の内容を確認すると共に、就業時間、服装などの打ち合わせを行っています。実習後は報告書を作成し、担当教員が内容を確認した後、企業の方に最終確認をお願いしています。例年、10月～12月の間に、各学科、各専攻毎に報告会を実施し、インターンシップで得られた成果、課題等を報告します。

今年度は、「新たなインターンシップ」として、インターンシップで取得した学生情報の採用活動への活用の話がありましたが、応募の段階では、昨年度と比べて大きな違いはなかったと感じています。昨年度と同様の条件などで、多くの企業等にインターンシップの場を提供いただきました。本科では、今年度は4年生の学生212名中145名(約68.3%)がインターンシップに参加しました。専攻科では、1年生の学生32名中10名(約31.2%)がインターンシップに参加しました。山口県インターンシップ推進協議会を通じて、県内企業等での短期インターンシップに参加した学生数は本科の4年生22名でした。本科生について、昨年度と比べ、全体の参加者数は約18%増加しましたが、県内企業等への参加者数は減少しました。

インターンシップを終えた学生は、働くということの大変さや厳しさを実感し、学生と社会人の違い、ビジネスマナー・コミュニケーション能力の重要性、自分に足りない能力等に気づいたという感想を報告書に書いていました。進学・就職を目前にした学生にとって、インターンシップは、今後の学生生活の取り組みを含め、自身のキャリア・デザインを明確にし、その実現のための目標や課題を考える機会になっていることが、報告書からも読み取ることができます。

最後になりましたが、学生をインターンシップ生として受け入れていただきました事業所の皆様、事前研修及びマッチング等でご支援いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後も引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

就業体験実施報告書

「土木建築工学科 教授」

本校では、例年、就職活動を始める前の4年生の選択科目、「校外実習Ⅰ・校外実習Ⅱ」及び、専攻科の必修科目「インターンシップ」のにて、就業体験を行っている。令和5年度も、夏季休業期間中に、21名（延べ22名）の4年生学生が山口県インターンシップ推進協議会様による就業体験マッチングシステムを利用し、インターンシップの機会を得た。最も利用が多かった学科は土木建築工学科で16名（延べ17名）、次いで、機械電気工学科の4名、情報電子工学科の利用者は1名であった。これは4年生学生全体の約1/6の学生が協議会を利用したということになる。特に、土木建築工学科はクラスの1/3の学生が活用しており、県内企業就職に興味を持っている学生にとっては大変有効なマッチングシステムと言える。

主に、5日間の就業体験経験者が最も多かったが、普段の学校生活とは異なる官公庁や企業での業務の実際を体験できたことは、今後の進路選択において大きな判断材料になることはもちろん、実際の業務を体験することによって、自分達の現在の実力の客観視につながり、それが勉学に対するモチベーションアップにもつながることもあり、学生には大変有意義であった。受け入れ学生に合わせて様々なプログラムをご用意くださった受入先機関には大変感謝している。特に、本校卒業生がインターンシップ受入れに関わってくださった受入先機関では、現役学生にとっては卒業生がロールモデルとして捉えられ、卒業後の生活をより具体的に想像できたという声もあった。

本校では例年、学生課教務係と4年生担任が連携して協議会サイトでのマッチングをフォローアップしている。協議会のマッチングシステムは「校外実習」・「インターンシップ」をフォローする担任にとっても、派遣先との個別のやり取りが簡略化されるケースが多く、業務負担軽減につながっており、感謝している。

一方で、協議会サイトを活用した学生の多くは4月から短期間で派遣先を選び、申し込みを行ったが、締め切りが6月初旬であったため、県外企業でのインターンシップも同時に検討していた学生にとっては少し早く感じられる締切日設定であったと思われる。これは、県外企業のインターンシップ情報の多くは6月以降に公開されるため、県外企業でのインターンシップも検討していた学生にとっては、インターンシップ日程の重複を調整できる可能性があるのかどうか、その時点では判然とせず、不安になったためである。さらには、申し込み締め切りは中間試験終了直後であったため、入力が遅れる学生も発生した。派遣先のマッチングにそれなりに時間がかかることは十分理解できるが、学生自身の行き先検討にもう少し時間的余裕が生まれるよう、可能であれば一次募集締め切り日を1か月程度後ろ倒しにしていただけると学生の不安感軽減につながるものと考えます。また、2箇所行きたい場合、別々に申し込みを行うフォームは分かり辛く感じられ、可能であれば、1回の入力ですべてのマッチングを同時に行っていただければありがたいと思う。さらに、2次募集の情報は早い段階から頂ければありがたかった。

上記の通り、気になる点が0ではないが、マッチングサイト自体の運営への感謝の念は変わらない。今後も引き続き活用させていただければ幸いです。

本校におけるインターンシップ等参加状況

「キャリア支援室長」

本校は本科3学科（商船学科、電子機械工学科、情報工学科）と専攻科2専攻（海洋交通システム工学専攻、電子・情報システム工学専攻）が設置され、就業体験（インターンシップ等）は本科4年生（2023年4月現在115名）、専攻科1年生（同16名）が主な対象となっております。

当校は、山口県東部の瀬戸内海側の屋代島に位置していることもあり、在席学生の出身地域別（出身中学校別）では、学生総数667名中、山口県内536名、山口県外131名となっています。県外の内訳は広島県と福岡県の出身が67名で、そのほか九州や近畿・関東地区となっています。また、当校の学生寮には174名が入寮しています。（専攻科生、留学生を含む）

当校の学生は例年、山口県外での就業体験に希望者が多く（今年度約90名）、特に県外出身者の寮生は夏季帰省時に実家からのインターンシップを希望する傾向にあり、さらに商船学科の学生は船舶に乗船しての実施希望者が相当数にのぼるため、山口県インターンシップ推進協議会様経由の申込者が少数にとどまっております。（今年度：のべ5名が参加）

夏季休業前の8月4日（金）には、山口県インターンシップ推進協議会様の協力を得て、当校にてインターンシップの事前説明会に相当する職業体験（インターンシップ等）マナー講習会をコロナ禍以前と同じ実地対面式で開催いたしました。開催に際しまして、事前に資料をご用意いただくとともに、当日は講師としてコーディネーター様2名にお越しいただき、マナーのご説明のみならず、インターンシップを取り巻く環境や近況につきましても直接学生にお話をさせていただくなど、学生にとって非常に有意義な時間になりました。山口県インターンシップ推進協議会様のご対応につきまして、御礼申し上げます。

最後になりましたが、長引くコロナ禍の影響下におきましても、平素と変わりなく、インターンシップ等の受け入れ等、実施をしていただきました企業の皆様と、受け入れ態勢の確立とその調整にご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に感謝の意を表します。